

- 問1 日本がコバルトやマンガンなどのレアメタルの確保において、リサイクルを推進したり、国による備蓄を行ったりしている理由として、最も適切な説明はどれですか。 (2017年 鹿児島県公立入試 類似)
- これらの金属は一度使用すると磁力を失うため、リサイクルしなければ再利用できないため
 - これらの金属は空気に触れると分解される性質があり、長期間の保存が難しいため
 - 産出国が特定の国々に限られており、国際情勢の変化によって供給が不安定になる恐れがあるため
 - 天然資源として採掘するよりも、廃棄物から回収する方が常に安価に調達できるため
- 問2 現代の日本における石炭の輸入状況と、その利用について述べた文として最も適切なものを選びなさい。 (2025年 広島県公立入試 類似)
- 石炭の主な用途は一般家庭での暖房用燃料であり、原油と比較して価格が安定しているため、冬場に輸入量が急増する傾向にある。
 - 環境負荷を低減するため、石炭の輸入量は年々減少しており、現在は太陽光や風力などの再生可能エネルギーの発電量を下回っている。
 - 石炭は輸送中の発火の危険性が高く長距離輸送に向かないため、輸入先はロシアや中国などの近隣諸国に限定されている。
 - 主な輸入先はオーストラリアやインドネシアであり、輸入された石炭は主に火力発電の燃料や鉄鋼業の原料として利用されている。
- 問3 お茶の産地として知られる静岡県などの地域において、茶の栽培が盛んに行われている要因となる、気候と土地の条件の組み合わせとして最も適切なものはどれですか。 (2017年 山形県公立入試 類似)
- 年間を通して温暖な気候で、保水力の高い土地
 - 年間を通して涼涼な気候で、保水力の高い土地
 - 年間を通して涼涼な気候で、水はけのよい土地
 - 年間を通して温暖な気候で、水はけのよい土地
- 問4 日本の資源自給率の統計において、鉄鉱石が0.0%、石炭が0.4%という極めて低い数値を示している現状を踏まえ、日本の鉄鋼業が発展した立地条件として最も適切な説明を選びなさい。 (2024年 徳島県公立入試 類似)
- 海外から輸入する主原料を大型船で直接運び込めるよう、太平洋沿岸などの臨海部に工場を配置している。
 - 国内の山間部で採掘されるわずかな原料を効率よく集めるため、内陸の交通の要所に工場を配置している。
 - 製品の輸送コストを抑えるため、原料の輸入港から離れた人口の多い大都市近郊の内陸部に工場を集中させている。
 - 明治時代の官営八幡製鉄所のように、現在も国内の炭鉱や鉄山がある原料産地のすぐ近くに工場を配置している。
- 問5 都道府県別の就業者割合を示した統計において、東京都、大阪府、福岡県、沖縄県などの、大都市圏や観光地を抱える地域で共通して高くなる傾向にある指標として、最も適切なものはどれですか。 (2019年 千葉県公立入試 類似)
- 製造業や建設業などの第2次産業の就業者割合
 - 各都道府県の総人口に対する老年人口の割合
 - 農業、林業、漁業などの第1次産業の就業者割合
 - 商業、サービス業、情報通信業などの第3次産業の就業者割合
- 問6 2019年の統計によると、日本の鉄鉱石と石炭の輸入先において、いずれも輸入量で第1位となっている国はどこですか。また、その国について述べた文として正しいものを選択してください。 (2022年 滋賀県公立入試 類似)
- ロシアであり、ユーラシア大陸北部に広大な国土を持ち、パイプラインによる資源輸送が盛んである。
 - ブラジルであり、南アメリカ大陸の大西洋側に位置し、アマゾン川流域の資源開発が進んでいる。
 - オーストラリアであり、広大な土地で露天掘りによる大規模な採掘が行われている。
 - インドネシアであり、東南アジアの島国で、近年は石炭だけでなく天然ガスの輸出も多い。
- 問7 1970年代以降、日本の遠洋漁業の漁獲量が著しく減少した最大の要因として、最も適切な説明はどれですか。 (2024年 香川県公立入試 類似)
- 各国が海岸から200海里の排他的経済水域を設定し、操業が制限されたため
 - 日本国内での魚の消費量が減り、肉類の消費が圧倒的に多くなったため
 - 沿岸部の工業化による海水汚染が深刻化し、回遊する魚が激減したため
 - 動力漁船の性能が向上したことで、短期間に国内近海での漁獲が可能になったため
- 問8 日本の都道府県別の畜産物産出額の内訳において、肉用牛が約35%、鶏が約33%、豚が約28%と、肉用家畜の生産が非常に高い割合でバランスよく行われている鹿児島県について、このような産業が発達した背景として最も適切な説明はどれですか。 (2016年 千葉県公立入試 類似)
- 広大な十勝平野や根釧台地において、寒冷な気候を活かした大規模な酪農が展開されたため。
 - 中央高地の険しい地形を利用して、夏でも涼しい気候を求めて牛や羊の移動放牧が行われてきたため。
 - 大消費地である東京に隣接しているため、生乳の鮮度を保ったまま出荷できる近郊農業として乳用牛の飼育が発展したため。
 - 火山灰が堆積したシラス台地が広がり、水持ちが悪く稲作に適さなかった土地を活かして畜産業が発展したため。
- 問9 東日本大震災後の日本において、停止した原子力発電の不足分を補うために、二〇一九年度の統計で全体の八割以上を占めるまでに割合が増加した発電方式と、その主な燃料の組み合わせとして適切なものはどれですか。 (2022年 高知県公立入試 類似)
- 火力発電（天然ガス・石炭など）
 - 水力発電（河川の水）
 - 地熱発電（火山などの熱）
 - 再生可能エネルギー（太陽光・風力など）
- 問10 日本とオーストラリアの間で行われている貿易の特色について述べた文として、最も適切なものはどれですか。2015年の統計において、オーストラリアからの輸入額が約4.2兆円であるのに対し、日本からの輸出額は約1.5兆円となっている状況をふまえて答えなさい。 (2017年 埼玉県公立入試 類似)
- 日本はオーストラリアへ鉄鉱石などの資源・原料を輸出し、オーストラリアから食料品や衣類を輸入している。
 - 日本はオーストラリアから石炭や液化天然ガスなどの資源・原料を多く輸入し、自動車などの工業製品を輸出している。
 - 日本とオーストラリアの貿易額はほぼ均衡しており、互いに農産物と水産物を中心に取引している。
 - 日本はオーストラリアに対して大幅な輸出超過となっており、その主な品目は精密機械や電子部品である。
- 問11 ある自治体の農業産出額の統計において、野菜が占める割合が50パーセントを超えている一方で、米の割合が1パーセント未満と極めて低くなっている状況があります。東京都に代表されるこのような農業の特徴について述べた文として、正しいものはどれですか。 (2017年 愛知県公立入試 類似)
- 人口が密集する都市部へ新鮮な食料を供給するため、付加価値の高い野菜生産に特化している。
 - 夏の涼しい気候を利用して、他の地域よりも出荷時期を遅らせる抑制栽培を主な収入源としている。
 - 広大な牧草地を利用して乳牛や肉牛を育てる畜産が、農業産出額の大部分を占めている。
 - 広い平野を活用して機械化を進め、主食である米を安定的に供給する役割を担っている。
- 問12 宮崎県などの暖かい地域で、多額の費用をかけてビニールハウスを設置し、野菜の出荷時期を本来の季節より早める「促成栽培」を行う最大の目的として、最も適切なものはどれですか。 (2015年 長崎県公立入試 類似)
- 農薬や化学肥料の使用を抑え、農産物のブランド価値を高めるため
 - 高冷地の涼しい気候を利用して、他の産地より出荷時期を遅らせるため
 - 大都市のすぐ近くで栽培することで、輸送にかかる時間とコストを抑えるため
 - 他の産地の出荷が少ない時期に販売することで、高い価格での取引を狙うため